

アラジン

何年前か忘れましたが、家族で劇団四季のミュージカル アラジンを見に行きました。私はとにかくジーニー役の俳優さんが楽しくてかっこよくてすっかり虜になりました。家内も同じだったようで、そのあともう一度チケットを取って見に行っていました。あんな魔法使いが自分のためにいてくれたら人生変わる気がしますね？

あれから時は経ち、現実は厳しいもので実生活では様々なトラブルがあるものです。とくに人からのトラブルはその都度形を変えながら、どこからか急にやってきて私を窮地に陥れ、理不尽な想いに憤り、悶絶するのです。娘をいじめる危険な生徒に何ら手を打たず、真摯な願いを届ける私をクレーマー扱いするだけの学校の先生たち。理解不能な逆恨みで心身ともに私を窮地に追い込む人の出現……。こんな時ジーニーがいて助けてくれたら、とどれだけ願ったことか。

でも最近時々考えてしまうんです。災難の渦中にいる時はわからないけど、誰にでも自分のジーニーみたいな存在が居るのではないか。そして彼は普段から、細かく私の願いを聞き取って、確かめもせずに自動的にぜんぶを叶えてくれちゃっているのではないかと。

例えば昔、だいが働いてからいろいろあって全財産が14万円まで減ったときはショックでした。しかしその時は若かったのもあって、悔しいとも心配とも思わずに「まあ生きていれば働けて、そのうちお金も入ってくるだろう」と思っていたら、これまでどうにか大病もせずに生活できています。

一方、子どもが生まれて家内が孤軍奮闘し、家のことに手が回らなくなった時は、「なんでこんなこともできないのか、なんでここに気が回らないのか」と責める気持ちばかりが募って、無いものばかりに目が行き、何でこんなことまでオレがやるのか、時間がない余裕がないと怒ってばかりいました。その時は事態がどんどん悪くなる一方で、いい事など一つもないと感じたものです。

今思えばどちらも私のジーニーが願いを叶えていたと思える節があるのです。彼は、私がお金は心配ない、と当たり前信じていたから「ご主人様、心配ない、をお望みですね。ハイ叶えましょう。」

一方では私の不満を聞き取り、「ご主人様、奥様があれもできないこれもできない、何でオレひとり家事やってるんだふざけるな！をお望みなのですね。ハイかしこまりました！」といって黙って叶えてくれていたのではないかと。

つまり私がもっと別の考え方、別の願い方をしていたら違う叶い方をしたはず。であるとすれば、10代の頃に「彼女できない、でもオレには無理そう(しかもこっちがホンネ)」と心のどこかで思っていたら、本当にできなかった理由もわかってしまった気がします。そうか、自分を都合よく信じきれなかったからなのか！世間ではよく、根拠のない自信のあるやつは夢をかなえやすいとか言いますね？

たぶんそれは正しいのです。

良いことも悪いことも区別せずに、私が信じた通りに叶えてくれる優秀な魔法使い。
そんな魔法使いがいたとして、再現性をもって良い方に導く技術はないのでしょうか？それは
まだ私も編み出せていません。むしろ途方に暮れています。

人は自分が認定した悪いことや悪い人をことさら重要な存在として過剰に重く認識するよう
にできています。それは人間が身の安全を確保するために必要な安全装置でもあります。でも
それが過剰にあると、いわゆる「執着」として、危険を感じる必要のないときでも作動し、常に
心身を緊張状態に保ち、その結果自らを破壊する原因となります。

皮肉なものです。

良くない物事や人に遭遇したら、ジーニーになんと願えばいいか、うまい方法があったら誰
か教えてくれませんか？そのからくりをマスターすれば、きっと人生向かうところ敵なしです
よ。

今回も緩和ケアに関係ないでしょって？ いや絶対ありますって。